

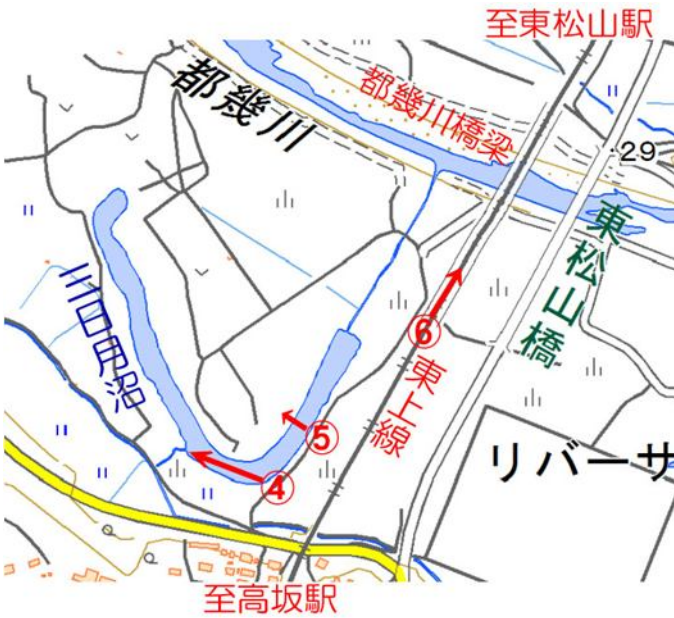
「都幾川の三日月湖(3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

特別調査車「モコ号」→



関東地方では珍しく、形状と水を残している、東上線脇の「三日月沼」その周囲を、簡単に調査してみた。



今年の関東地方は、梅雨時でも雨が少なく、各地の貯水池やため池で渇水が続いている。この三日月沼も例外ではないようで、水量は少ないようだ。その証拠に、汀線が木々の根元よりもかなり下がり、土の斜面が現れている。



地点④から見た、上流側の様子。本来はずっと沼が続いているはずだが、途中で水面が終わり、湖底と思われる場所に雑草が繁茂してしまっている。もともと新鮮な水の流入が乏しい上に雨も少なく、水面が下がってしまったのだろう。水も決して美しいとは言えず、緑色に淀んでいる。



地点⑤から見た水面の様子。「うわさ」通り、ここは釣り人には人気のようだ。釣り人が自分で造ったのだろう。足場がたくさん見られた。足場から長い竹ざおを湖面に浮かせてある。これは何に使うのだろうか? そもそも、水の流出入のほとんどない、こんな小さな沼に、どんな魚がいるのだろう。私は、水の採取をしなかったのを残念に思った。きっと植物プランクトンの宝庫だろう。特に「三日月沼産のミカツキモ」は、是非観察したかった。新種なら「ミカツキヌママミカツキモ」という、紛らわしい和名をつけたい。



地点⑥から見た、東上線都幾川橋梁。上り線(右)は東上線が単線だった頃からの古い橋脚(大正12年建造)。三日月沼がまだ都幾川本流だった時、ここは河畔だったはずである。大雨の時は水が蛇行部を乗り越えて、橋脚が水に浸かったこともあるだろう。